
金髪

りん。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

金髪

【コード】

N9986F

【作者名】

りん。

【あらすじ】

ある日、突然話したこともない同じ大学の人物に呼び出されて…
!?

1 (前書き)

い。BL要素。性的シーンが含まれているので苦手な方はご遠慮ください。

平和だ：静かなる世界。

うちの家には小さな虫（小虫、または小虫ちゃんと呼びたい）が大量に飛び交っていた。

一番嫌なのが大好きな食事中におれにもくれようといわんばかりに俺の視界に入って主張しやがる。

俺が言いたいのは今居る場所がすこぶる俺を癒してくれるということ。

「……………っ!？」

早速後悔。

時刻は午後六時。

ここは近所の公園の筈だが：

昼の姿が一変して、お化けが出てきてもおかしくない雰囲気になってしまっただった。

時計を覗くと約束の時間より十分早い。

呼び出したやつは俺の憧れる対象で最も苦手なタイプだった。

初めこそ挨拶もある程度していたその人。

俺とは正反対の人物で大学内ではとにかく目立つ人だった。

ザッ

人の気配。

いつの間にこんなに近くにいたの？

「……」

俺は微動だにしなかった。

「……」

沈黙が重くなる。

思い切って顔をあげる。

「っ!?!」

そこにオンナノコが立っていた。

腰まである長い金髪をポニーテールにして涼しい風で舞っている。

小学生と言っても通る小柄で折れてしまいそうな体つきに猫みたいに大きな瞳。

嘘お!?!お前男だろっ!?!?

と叫ばずにはいられない。

煩い心臓を抑えてふと疑問を持つ。

今日は何で呼び出されたんだろう？

「あの…?」

俺はこのひとのことは何も知らないというスタイルの筈。

共通するものも接点も全く無かった…。

俺がそつと見るとそこには別な人がいた。

ヨウジさんは（フルネーム、ヨウジ菱だ）眉間に深い皺を刻み何か悔しいように下唇を噛み、俺をなんとも言えない気持ちへとさそった。

それも一瞬のことだった。

「ヨウ…うあ」

淡い香りが鼻を掠めた。

足に根っこが生えたようだった。

でなければ俺は完全に腰が抜けて座っていただろう。

俺の胸の上から言葉が伝わってきた。

「……すき」

言葉の代わりに鳩尾の辺りからマグマのような熱が立ち昇ってきた。

「離せ」

どんな顔をして言ったんだろう。

俺はそう言うより早くその華奢な肩を思いの外弱々しい力で押し返した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9986f/>

金髪

2011年1月8日15時16分発行